



# ～ 輝きの子育て ～



## 10万人が愛した言葉 No 2

明けましておめでとうございます。令和6年の幕開けとなりました。今年も皆様が感謝と喜びの気持ちで日々を過ごせ良い年でありますことを願っています。

元旦、お正月と言えば、昔は日本では格別な儀式でありました。暮れにはどの家庭も畳をあげ干し窓ふき等、家族皆で大掃除をし、クタクタになりながら、でもその年の辛さ、苦しみ等を全て銭湯のお湯の中で洗い流し、帰宅に向かう夜空の月は輝きとても美しく来年こそは良い年になるよ！と約束してくれているようでした。年の変わり目は、新たな希望に輝ける未来がやってくるようなそんな気持ちに子どもながら感じさせられたものです。最近そのような伝統的風習、慣習が薄れ失われ、お正月らしさを感じられにくくなった昨今に年のせいもあるでしょうが一抹の寂しさを感じております。

今月の「輝きの子育て」は以前2023年3月号に掲載しました「致知」出版社から出ています「10万人が愛した言葉」の本の中より未掲載のメッセージを載せさせていただきます。感動の言葉、生きる意味を見出す言葉が沢山掲載されています。

### 《自分を育てる》

- 一生懸命やっていたら 仕事が仕事を教えてくれる (鎌倉鉢の木創業者 千葉ウメ)  
47歳まで専業主婦でありながら、一念発起しておにぎり屋を始めた千葉ウメさん。「熱心に行っていると人にも恵まれる」と自身体験から語ります。
- 自己完成の十か条 (製紙王 藤原銀次郎)  
1. 仕事をかならず自分のものにせよ 2. 仕事を自分の学問にせよ 3. 仕事を自分の趣味にせよ  
4. 卒業証書は無きものと思え 5. 月給の額を忘れよ 6. 仕事に使われても人には使われるな  
7. ときどきかならず大息を抜け 8. 先輩の言行を学べ 9. 新しい発明発見に努めよ  
10. 仕事の報酬は仕事である  
業績が悪化していた王子製紙の再建を果たし、「製紙王」と称された藤原銀次郎。  
「愉快に働く十か条」ともいわれる心得は、自ら仕事を創造し、人生を楽しくしていくための心の工夫を説いています。

- よい本を読め よい本によって己を作れ 心に美しい火を燃やし 人生は尊かったと 叫ばしめよ (仏教詩人 坂村真民)  
詩壇には目を向けず、自分という人間を作り上げるために、人々の心に光を灯すために詩を書き続けた坂村真民氏。貫くものを持ち、心に美しい火を燃やし、尊い人生を生きよと、時代を超え語りかけます。

### 《生き方の流儀》

- 晩年がいい人の条件の一つは、人のせいにしないこと (精神科医 斎藤茂太)  
「心の名医」と呼ばれた精神科医・斎藤茂太氏。多くの臨床経験を踏まえ、「きのある人生にするには、他人に依存することなく、自立した考え方を持つべき」と説きます。
- 一隅を照らすもので私はありたい 私の受け持つ一隅が どんなに小さいみじめな はかないものであっても 悪びれず ひるまず いつもほのかに 照らして行きたい (元住友本社常務理事 田中良雄)  
住友電工中興の英主と讃えられる田中良雄氏。終戦後の困難な時代、上掲の言葉は住友電工の精神ともなっていました。その立場においてなくてはならない人、小さくとも光る人になりたいものです。

- きのうという日は、二度とかえらぬ日 明日という日は、まだ見ぬ未来 今日という日を、大切に生きる (女優 山本富士子)  
映画の黄金期にスターの座を不動のものとし、その後も多くの人々を魅了してきた山本富士子さん。自宅の部屋に貼り座右にしてきたという話に、一日一日を誠実に生きようという姿勢が伝わってきます。

### 《志を遂げる》

- 一生懸命になっている時って 苦を忘れるんですよ。苦を忘れるために夢中になる。そうなれば夢の中ということです (歌舞伎俳優 坂東玉三郎)  
名人、達人といわれる人たちには共通した資質があります。対象と一体になっている。寝ても覚めても仕事のことを考える。修練する。その絶え間ない繰り返しを人が高みに押し上げるのでしょうか。
- 苦しみに遭って自暴自棄に陥ったとき、人間は必ず内面的に墮落する。同時に、その苦しみに耐えてこれを打ち超えたとき、その苦しみは必ずその人を大成せしめる (スイスの教育実践家 ペスタロッチ)  
障害を障碍教育に捧げ、教聖と讃えられるペスタロッチ。幸不幸の状況はその人の受け止め方により、異なる現実をつくり出していくということでしょう。人生を、人間を知り尽くした人の言葉です。
- いまやらねばいつできる。わしがやらねばたれがやる (彫刻家 平櫛田中)  
100歳でその先30年分の仕事の材料を買い込んだという平櫛田中。己の業に懸ける凄まじいまでの気迫と強烈な主体性が、この言葉からも伝わってきます。
- 制限の中において 初めて名人はその腕を示す (詩人・作家 ゲーテ)  
制限の中において、いや、制限の中にあるすべての条件を生かしてどう自分の理想を実現するか、自分の人生を充実させるか。そこに名人としての呼吸があるということ、ドイツの文豪は述べています。